

## 共同研究管理室

室長：木村 廣光  
流動研究員：岩崎 師壽江

平成14年3月1日より、国立成育医療センターとして、世田谷区大蔵に病院が開院され、平成16年度より、研究所が併設される予定である。現在、研究所は、旧国立小児病院・小児医療研究センター跡地（世田谷区太子堂）にあるため、距離的問題から、太子堂研究所内の臨床共同研究区域をフルに利用する事が極めて困難な状況にあるが、臨床共同研究区域に、旧免疫研究室・香坂研究グループ、旧病態生理室・宮坂研究グループが、中心として、継続的な実験研究を行っている。今後、成育医療センターの臨床研究従事者と本研究所・職員のみならず、さらに産学共同の総合的・戦略的な研究体制の確立を目指して、共同実験区域が、より有効に・効果的に利用される方向に準備を行っている。

本研究室では、移植免疫学を基盤として、細胞の増殖・分化のメカニズムに関する基礎的研究を推進し、受精から個体へ向かう、発生現象の細胞・分子生物学的基盤研究を通じて、難治性アレルギー疾患の診断と治療への応用研究を、成育医療へ役立てる事を目的として研究を行なっている。

### 研究プロジェクト：

#### (a) 移植再生医療への応用を目指した、移植免疫寛容現象の細胞並びに分子生物学的メカニズムの解明

- 1) 移植免疫寛容とミクロキメリズムの基礎的研究
- 2) 樹状細胞培養法の確立とその応用
- 3) 新規免疫抑制剤 FTY 720 の免疫生物薬理作用の検討

#### (b) 成育医療への臨床応用を目指した、胚性幹細胞 (ES 細胞) 様多分化能を有する骨髄幹細胞の樹立

- 4) 小動物、特にラット胚性幹細胞 (ES 細胞) 樹立のための基礎的研究
- 5) マウス栄養芽幹細胞 (TS 細胞 胎盤に発生する幹細胞) とマウス ES 細胞凝集胚からのマウス胚生産のための基礎的研究
- 6) 再生医療、特に肝再生への応用を目指した、胚性幹細胞から肝細胞への分化誘導に関する基礎的研究